Guidance of KYOTO TOWER

360° 古都の絶景パノラマ ◀◀◀SKY VIEW▶▶▶

地上100mにある展望室からは、京都の眺望がグルリと360度楽しめ、天候に恵まれると大阪まで見渡せます。東山三十六峰のなだらかな稜線を借景に、薄暮から夜景へと移ろう市街地の灯りは、美しく幻想的な景色に包まれます。

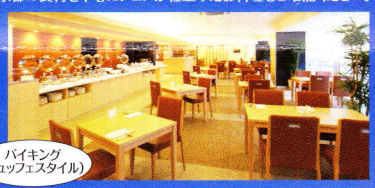
カゴ内壁面が金色のエレベーターには京都の名所・銀色には京都三大祭が描かれモニターでは展望室の見どころをご案内しています。

KYOTO TOWER HOTEL

展望室からのお帰りには、ぜひご来店ください。

京都タワーホテル 3F 京都の食材を中心にシェフが仕上げたお料理をご堪能ください。

RESTAURANT TOWER TERRACE
レストラン タワーテラス



バイキング（ビュッフェスタイル）

ランチタイム
平　日　11:30～14:30 (L.O 14:00)
土日祝　11:30～13:00 (L.O 12:45)
　　13:30～15:00 (L.O 14:45)

ディナータイム
17:30～21:00 (L.O 20:30)

コース料理は別室「べにしろ」にてご案内します。

展望室 3F 景色を眺めながらゆっくりお過ごし頂けるラウンジです。

スカイラウンジ「空」KUU

ティータイム
15:00～20:00 (L.O 19:45)

バータイム
18:00～23:00 (L.O 22:30)

古都を象徴するランドマーク

◆ビルの屋上に建つ！

地下3階・地上9階のビルの屋上がタワーの土台となっています。約800tもの重さがビルにかかりますが、構造の工夫で、建物の機能を少しも損ねていません。

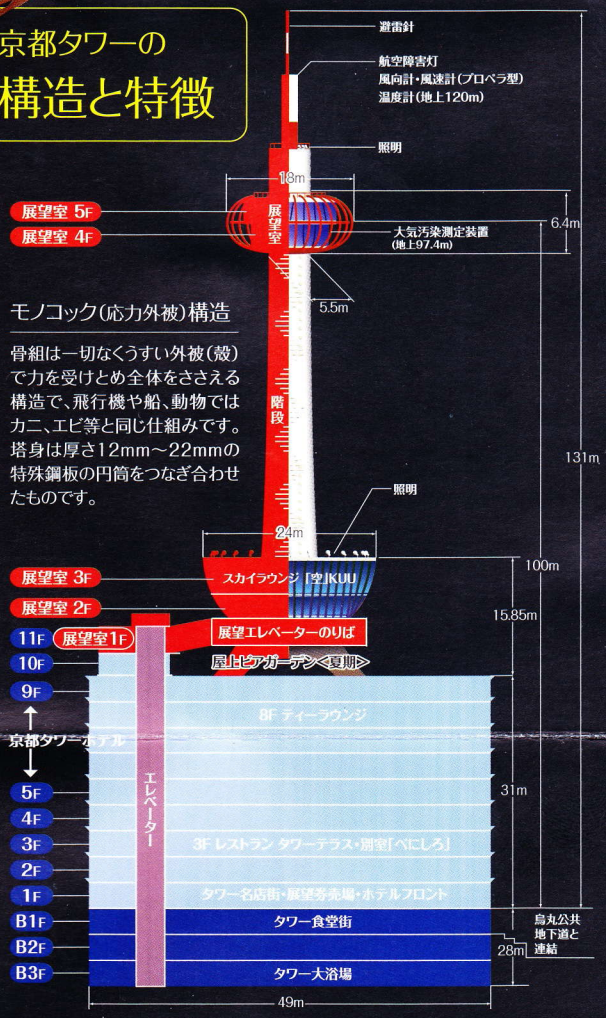
◆京都の街を照らす灯台をイメージ

京都駅の烏丸中央を出て、真正面に威風堂々とそびえる京都タワー。1964年（昭和39年）12月に誕生したタワーの独特な姿は、灯台をイメージしたもの。
京都市内の町家の瓦葺きを波に見立て、海のない京都の街を照らし続けるシンボリックな姿は、いまも多くの人々を魅了しています。

◆世界に誇る建築構造

その姿だけではなく、構造も独創的なのが京都タワー。エッフェル塔や東京タワーなどと違って、一切鉄骨を使っていません。厚さ12mm～22mmの特殊鋼板シリンダーを溶接でつなぎ合わせ円筒型の塔身とし、この種の大規模塔状構築物としては、わが国で初めてモノコック（応力外被）構造を採用しています。構造設計は、当時の京都大学工学部に依頼。京都タワーと京都タワービルを一連の架構とし、一般建築物の設計安全率を2倍以上も上回った値を想定して建てられたため、これまで瞬間風速50m/秒を超えるいくつかの台風を経験し、また阪神大震災時も震度5強の激しい地震動を受けましたが、ほとんど損害も無く高い安全性を証明しています。

京都タワーの構造と特徴



モノコック（応力外被）構造

骨組は一切なくうすい外被（殻）で力を受けとめ全体をささえる構造で、飛行機や船、動物ではカニ、エビ等と同じ仕組みです。塔身は厚さ12mm～22mmの特殊鋼板の円筒をつなぎ合わせたものです。

※館内施設の一部営業を休止もしくは変更する場合があります。

TOWER DATA

■位置 東径 135°45′42″　北緯 34°59′55″

■高さ 131m（塔頂まで）
展望室の高さ…100m　海抜高…159m

■塔身の直径
下部…10m　上部…5.5m

■展望室の広さ
延べ面積　約1,021m（1～5階）
上部展望室 約　237m（4～5階）約400人収容

■エレベーター
2基（展望室1階より展望室5階まで105m/min・60m／min）

■各種観測設備
風向計・風速計／1台（地上120m）
温度計／1台（地上120m）
大気汚染測定装置／1台（地上97.4m）